

恩師・松井繁先生を想う

八木 博

960-0102 福島市鎌田字赤沼21-3

阿武隈川にハクチョウが初めて飛来したのが、昭和45年1月7日の事でした。日毎に数が増してきて26羽のオオハクチョウが川面で優雅な姿を浮かべていた。当時福島県では猪苗代湖だけが白鳥飛来地でした。川の流れの飛来地であることが珍しいのか、新聞、テレビなどに取り上げられ多くの人達に知れわたってきて、福島の冬の風物詩として全国に報道されました。各地からの手紙や電話の問い合わせがあり、種々回答しました。

昭和48年2月に「札幌の松井ですが」と自宅に電話があって、全国の白鳥飛来地の写真を写しているの、阿武隈川のハクチョウを訪ねたいとの電話で、案内を約束しました。福島においでになり、寒風の中愛用のハッセルブラードカメラで記録を写されていました。札幌からお越しの松井先生を岡部白鳥愛護会では地元の野菜料理で歓迎会を開催しました。歓談の中に「日本白鳥の会」の発足についてお話があり、上竹二郎さんと私の二名で東京で開催された「日本白鳥の会」発足に参加致しました。全国から白鳥飛来地の方や関係者の方、外国人など皆さんが広く出席され、松井先生の人柄と器の大きさに感動しました。この事がご縁で電話、手紙等でハクチョウや野鳥



平成15年4月25日、先生の自宅前にて。

生態についてお尋ねし、図鑑に書いてない事もアドバイスを受けてより以上に知識を得ることができ間違いのない指導を出来るようになったのも松井先生の御蔭と感謝しております。

30年余年のお付き合いのなかにも数多くの思い出があります。1997年にサハリンに白鳥ツアーを白鳥の会で企画され、松井会長さんを含めて23名の参加で1週間共に過ごしました。初めての海外旅行で、私にとっては忘れられない思い出になりました。

サハリンでは道路の整備が遅れていて、四輪駆動のバスで身体全体が大揺れの中の探鳥で経験の出来ないようなツアーでした。日本と違って身近にハクチョウを観察できませんでしたが、本当の野性のハクチョウとの出会いでした。ズドリコフ・アンドレイ鳥類専門家から、サハリンを渡るコースについても大きな地図で通訳を通して分かりやすく説明を受け、大変に勉強になりました。

帰国前日の夜、宿泊していたホテルの一室に参加者全員が集まり、ユジノサハリンスク市内で仕入れたタラバガニの食べ放題で打ち上げで、各自日本から持参した日用品、食品などの残り品物を皆で持ち寄り、今回のツアーでお世話になった現地の方々にプレゼントをし、感謝に代えようとさしあげる事になりました。物資の少ない地なので、喜んでいただける事でしょう。松井会長さんの発案でした。

会長さんの打ち上げの挨拶の中で、「天気もよく、あの人たちの厚意も一杯ありました。私自身の一生の中で今回が一番楽しい旅行でした。皆さんもそうであったらと思います。何処に行った、此処に行った、みな精進が良かったおかげで、この一週間大変良い天気、精進のおかげで人を疑わず・・・今日はそう思っております。10人位の参加者と考えておりましたが、こんなに来てもらい、アンドレイをはじめカラフトの皆さんが喜んでおります。彼らの厚意がひしひしと感じられ、いい旅でした。昨日はクマ撃ちと一緒に歩きました。一生の内にこんな旅行はもう出来ないだろうと思っており、喜んでます。本当に皆さんの精進の結果、いい写真もとれたし、いい思い出も一杯出来たと思います。これみな精進のおかげと思います」と反省をかねた喜びの挨拶でした。帰りの日も、静かな海を全員事故もなく予定の時間に帰国ができました。これみな「精進」のおかげと感謝しています。

2年後の1997年7月13日～25日の日程で、ロシアのサハ共和国レナ川中流のオオハクチョウに関する調査があつて、松井先生から参加のお誘いがありました。一度は行ってみたいロシアでしたので、参加する事にして準備に取り掛かりました。欠員ができたので家内のほうにも、先生からお誘いがありました。私の退職記念として共に参加することにしました。約2週間の海外の旅行に出掛けるのは私達にとって初めての事でしたが、どうにか都合をつけてロシアに向かいました。

飛行機の窓から見える本当の青い青空、何時間も続くタイガ地帯はさすがロシアの風景です。ヤクーツクから白夜のレナ川を船で下り目的地のサンガルに着き、飛行機で一本の道路もない自然の原野を上空から調査しました。調査船がホテルに変わってモーターボート3艘で川沿いや中州のできた沼などに行きました。ハクチョウ、カモ類の餌になるような水草がどこにでも見られました。野鳥が長い距離を移動してくる

意味がわかったような気がしました。

サハリンでは体験出来なかったことや多くの動物との出会いなど、私にとって素晴らしい調査旅行でした。家内共々お金では買えない大きな心の財産が出来ました。

これもひとえに松井先生からのお誘いがなかったら体験できないことです。松井先生との出会いがなかったとしたら、詰まらない老後を送っているかと思うと「ぞおつと」します。

松井先生のご逝去のお知らせが、青森の古川博さんからありましたが、服島市での白鳥のイベントが重なってしまし。出席できませんでしたので、毎年、4月末には宗谷方面にハクチョウたちの旅立ちの様子を観察に行く途中、札幌の松井先生の自宅にご焼香に立ち寄った際に、奥様の陽子さまから先生が愛着していた防寒着、チョッキ等を八木さんに着ていただければ主人も喜ぶでしょうとのお言葉をいただきました。私もいただいたチョッキを、自然に飛び出すときはいつも愛着しようと思っております。何時でも恩師松井先生と一緒に自然の中で過ごしたいと思っております。

最後になりましたが、松井繁先生、本当に数々のご指導をありがとうございました。